

- プレナリーセッション

- 初日：European Open Science Cloud (EOSC) についてのプレナリーセッション。
- 2日目：提言・アウトプット等。基調講演は喜連川 NII 所長・東大教授。
- 村山私見：EOSC は、欧州委員会 DG-RTD (研究イノベーション総局) 施策。RDA-EU は DG-CONNECT (ICT 総局) が支援。相互乗り入れしている点は今後の展開が興味深い。



初日プレナリーの EOSC パネル (J.C. Burgelman (EC), R. Wilkinson (ANDS), S. Wolff (Internet2), B. Mons (Leiden U.), M. Parsons (RDA), 村山 (NICT/WDS)) .



Barend Mons
(EOSC High Level Expert Panel Chair)

- フォーカス 1：RDA のエコサイクル

- RDA からのアウトプットの報告に重点
(WG は 18 ヶ月でアウトプットを出すルール→当該 WG は終了)。
- WG、IG の合同活動も活発。→オープンサイエンス構成要素群のシステム化を意識か。
- IG、BoF の新規立ち上げ、議論。(→次の WG 設置準備検討)。
- 各 WG アウトプットは技術的・社会的・文化的構成要素となっていくと思われる。
→壮大なデータ基盤の構成要素づくりとして軌道に乗るか？成功事例をどれだけ生み出せるか？エコサイクルとなるか？

- フォーカス 2：RDA と外部関連機関の連携

- 国際組織：ICSU-WDS、CODATA、Data Seal of Approval、DataCite、ORCID 等
- 関連プロジェクト等：EUDAT、EDISON、European Open Science Cloud 等
- 新たな立上げ：OECD Global Science Forum (GSF) WGs
 - ◇ GSF-CODATA Project on Business Models for Data Repositories
 - ◇ GSF-WDS project on International coordination of cyber-infrastructures

- フォーカス 3：コミュニティの多様化、拡大トレンド

- ライブラリ (図書館)、リポジトリ、人材育成、各研究分野
- アジア、日本、アフリカ、南米等の参画を促す

- サイドイベント (co-located events)

- RDA/WDS Data Publishing, Adaption and Implementation
- データサイエンス人材育成プログラム検討：Competences and Skills for Data and Research Infrastructures (EDISON)
- Beyond Compliance in Data Management: Best Practices and Ideas for increasing Reuse
- EUDAT/ROIS 連携データ基盤ワークショップ

- Data Perspective Beyond Alliance: OECD、データ基盤、メタデータ、データジャーナル
- 「研究データとオープンサイエンスフォーラム」(2016年3月17日)
 - RDA-P7 (東京) を振り返って：7名の報告者、ディスカッション
 - 「研究データ利活用協議会 (仮称)」の立ち上げを提案

以下、主に村山私見：

- データ基盤 (e-infrastructure、cyber-infrastructure)、e-研究基盤 (e-IRs; Research Infrastructures) の国際整備へ向けて
 - EUDAT、ESFRI、GEANT、各国イニシアティブなどが並行。
 - European Open Science Cloud：コミュニティからは、グローバルなデータ基盤構造「Open Science Cloud」の欧州セグメントとなってほしいとの意見も。→アジア、欧州外の巻き込みが重要？今後は施策の公募、立案へ向かう予定。
- 現在の RDA 支援予算は、競争的資金とのこと (NSF)。
 - ◇ Mark Parsons 等 RDA 責任者クラスの人件費も競争的資金や各機関の予算回り持ちで支援しているらしい。(雇用契約が数か月ごとに変わることも。)
 - ◇ NSF の競争的資金枠には、「国際調整事業」枠があり (少額)、ここに応募、審査を経て予算を得ているもよう。EC でもおおよそ同じ構造らしい。
 - 日本には、競争的資金に国際調整活動枠はない？
- G8+O6 data infrastructure WG の変遷 (RDA-P6 まで)
 - RDA 創設のきっかけの1つ。RDA のサポートコミュニティとして働き。
 - →RDA-Colloquium (RDAC)：RDA サポート組織として RDA 理事会などと連携して活動。
 - RDA-P1～P5 で初期の役割は終了しつつあるとの認識 (EC、NSF の戦略として)
 - CRE (Collaborative Research E-infrastructure) Funding Group の創設へ。
 - 欧米豪以外の資金を求める声が強まってきている感あり (日本、中国、etc.)。
 - 村山見解：科学技術資金配分構造、資金決定過程の違いが少しづつわかってきた
 - 欧米予算機関の会議に日本・アジアが入っても同じ動きでは調和できないのではないか。行政意思決定や予算配分機関の機能が欧米⇄日でかなり異なるらしい。NSF・EC と JST、JSPS 等は同じ動きはできない。
 - 村山見解：科学技術予算と実施について、G8 国が本当に国際調和させたいなら国ごとの違いを吸収できる枠組み・国際グループ形成が必要ではないか。

(本資料中の写真・図表類は <https://rd-alliance.org/plenaries/rda-seventh-plenary-meeting-tokyo-japan> による。)